



東京YMCA

2012 5 月号

発行所 公益財団法人東京YMCA 発行人 廣田光司
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL http://tokyo.ymca.or.jp

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

寄付が育てる 人・活動・社会

座談会

さらなる公益活動へ YMCAに期待強く

東京YMCAが公益財団法人に認定されてから1年が経ちました。税額控除を受けられる団体としても認められ、さらなる公益活動への期待が高まっています。公益活動を行うためには、募金や寄付などによる支援が欠かせません。東京YMCAは昨年度、その促進のため「FD委員会」(FD=Fund Development)を設け、9人の委員が検討を重ね、3月の理事会に答申書を提出しました。3人の委員にその思いや期待を聞きました。

(司会・FD担当職員 村上祐介)

※FD= Fund Development 寄付や募金をはじめとする支援体制を促進していくこと

◆ 「FD委員会」答申書より ◆

『FDは、募金だけを意味しない。Reputation-building (評判を築くこと)、Relationship-building (関係を広げていくこと)、Resources-building (人的・資金的資源の開発)、Fame-raising (名声をあげる)、Friends-raising (支持者を増やすこと)、Fund-raising (募金運動)を含む概念でもあるとされている。これは東京YMCAの経営姿勢の根幹にかかわる問題を多く含んでいるので、理事会・評議員会において、この答申を審議し、実行体制を整えていく。』

公益法人への期待と税優遇制度

も整備されてきた。税制上の優遇措置が受けられるようになったのも、その期待からである。

村上 東京YMCAは2011年4月から公益財団法人として認定された法人として認定され、11月には税制上の優遇措置(税額控除方式での寄付金控除)が受けられるようになった。このことの意味や期待についてお話をください。
山本 社会的なニーズを、政府だけでなく、民間がそれぞれの強みを発揮して担っていくことが期待されている。世界的に強まっている。日本でも阪神大震災以降、NPO活動が盛んになってきて、それが法的に



ひろた こうじ
廣田 光司

東京YMCA総主事・代表理事、FD委員



村上 祐介

東京YMCA会員事務局職災、FD委員。昨年来、石巻支援担当者として主に石巻支援に携わる



かろう
山本 和さん

本会評議員、FD委員会委員長、国際基督教大学常務理事・理事長代理、元ユニセフ本部財務局長



あさば
浅羽俊一郎さん

本会国際委員、FD委員、日本UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)協会評議員、元東京YMCA主事

自分たちで支える「寄付社会」

というのがあるが、そういうのは神道や仏教でもある。寄付をするというのは、一つ文化として、考え方として大事なことだと思ってる。サビスの対価が欲しいからお金を払うのではなく、意義あることに協力するということ。震災の復興支援に限らず、日常的に家族で考えて寄付をするということによって、社会の問題を考えると、寄付をすることで、効果的に支援をやる組織を選んで募金したいという心を持ち、社会的に意義があることを理解し、参加者にも丁寧に伝えていく。それが、社会的に意義があることを理解し、参加者にも丁寧に伝えていく。それが、社会的に意義があることを理解し、参加者にも丁寧に伝えていく。

ニーズをとらえ 特色ある活動をする

村上 東日本大震災では、成人の75%以上が何らかの寄付をしたといわれています。
山本 さまざまな団体が震災支援活動をしている中で、東京YMCAを選んで募金してくださった企業や個人がたくさんある。実際に、中長期的な支援には、キャンプなどYMCAの力が発揮された。福島の子どもや家族を招待して行って「リフレッシュキャンプ」には、すでに700人以上が参加している。YMCAの特色を活かした活動をし、そしてそれを発信していく中で、たくさんの方の支

援が寄せられた。というのがあるが、そういうのは神道や仏教でもある。寄付をするというのは、一つ文化として、考え方として大事なことだと思ってる。サビスの対価が欲しいからお金を払うのではなく、意義あることに協力するということ。震災の復興支援に限らず、日常的に家族で考えて寄付をするということによって、社会の問題を考えると、寄付をすることで、効果的に支援をやる組織を選んで募金したいという心を持ち、社会的に意義があることを理解し、参加者にも丁寧に伝えていく。それが、社会的に意義があることを理解し、参加者にも丁寧に伝えていく。

赤三角

4月21日、仙台で開催された東北YMCA理事・常議員・総主事研修会に参加した。各YMCAからの報告と共に、

宮古・石巻における災害支援報告があり他のボランティア団体には見られないYMCAらしい支援の様子を聞かせていただいた。翌日、YMCA石巻支援センターへの視察ツアーが組まれ40名が参加した。途中、全校生徒108人のうち7割に当たる74人が犠牲になった大川小学校にて礼拝と献花を行い、津波で街全体が被害を受けた雄勝町、女川町を経由して支援センターのある石巻中心部へ。1年が経った今も津波の大きな爪痕が残ったまま、自然災害の恐ろしさと共に復興の道のりの厳しさを思い知らされた。今後の復興支援に求められるのは、被災者に寄り添った被災者の生の情報を生かした息の長い支援活動である。これをやるのがYMCAであり、新しい公益の担い手として東京YMCAは、石巻支援センターをベースに長期的な支援体制を整えスタートした。そこで考えねばならないのが継続のための資金的寄付である。このことは、震災支援活動に限らず全ての活動に共通して言えることである。東京YMCAに関わる全ての人が、会員の裾野拡大や企業サポーターの開拓を他人事では無く自分達自身の問題としての意識を持っていただければ幸いである。(評議員・FD委員 宮内 友弥)

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

※ FDを大きく育てよう

本会理事・FD担当理事 茅野徹郎

東京YMCA130年の歴史を振り返ってみますと、YMCAのムーブメントに理解を示された多くの方々より、財政的サポートをいただけてきました。もちろんその中にはアメリカを中心とした海外の個人、グループの人達も多くいます。このような寄付が活かされて現在われわれの社会貢献活動が可能であることは感謝です。

公益法人申請準備の段階よりスタッフを中心にFD検討会をすすめてまいりました。やはり募金のやりかたで進んでいるアメリカを見習う必要があらうということで、スタッフがアメリカYMCA同盟の勉強会に参加して進め方を学んできました。もちろん日本に利用出来るやり方や、日本では無理だろうと思われる方法などは区別する必要がありますが、可能な限り参考にして応用してゆきたいと思っています。

昨年公益法人として認可されましたので、評議員を中心にFD委員会をスタートさせ山本委員長のもと委員の皆さんの精力的検討を経て「FD委員会答申書」ができました。次のステップはこれをどう具体的に展開し実施してゆくかです。この第二ステージも従来の検討委員の皆さんにお願いしました。

われわれの社会貢献活動を支える財政の重要な柱は寄付金です。FDの柱をより太く強いものにしてゆくためには、YMCAの活動が的確に伝えられ、多くのサポーターを得る必要があります。また同時に寄付をしてくださった方々がこれら活動に寄与しているという誇りをもっていただくことも大切です。このように考えますと、募金活動と広報活動はうらはらの関係です。免税の恩恵を受けた機会にYMCAの存在とわれわれの活動は地道ではありますが、社会における重要性を広く一般に訴求してゆきたいと考えています。

「まず醜(かい)より始めよ」という言葉のようにYMCAに関係している我々もFDに積極的に拘わりをもちYMCAのミッションのため財政基盤を強固にしていきたいものです。

※FD= Fund Development 寄付や募金など支援体制を促進すること

浅羽 「YMCAはお手伝いします、若者がつくる安心社会。」などキヤッチ

山本 ユニセフでは、ポリオをなくすとか、すべての人に教育を、など非常に具体的な呼びかけをしています。本当に大切なことは、宗教色や政治色など関係なく説得力を持つ。

浅羽 「YMCAはお手伝いします、若者がつくる安心社会。」などキヤッチ

山本 昨年度、「中長期計画委員会」という委員会で、東京YMCAの深刻な財政問題について改善策を協議してきた。YMCAの活動は多岐にわたっている。寄付による活動ばかりではない。専門学校や通常プログラムは、基本的に参加費や学費による独立採算制をとっているし、行政からの委託事業の資金は行政が負担している。今、その独立採算部門が財政難に陥

山本 この答申書も、皆張のない団体とも見られる。先日かつての同僚から、YMCAは原簿問題に悩んでいると聞かれた。関わっているか聞かれた。たとえば、原簿、環境問題などについて、子どもにも分かるように、「YMCAは子ども達とともに放つ」など主張したら、メッサー性が出てくる。性格が出てきて分りやすくなる。戦後のYMCAは平和について主張していた。少し目立つくらいに主張したい。

浅羽 YMCAは宣伝が得意ではないと思う。いい活動をしているのに知られていない。いまだにクリスマスチャリシカ入れないと思われていたりする一方で、主として子ども達のために、「YMCAはこんなことをしてくれる」と、当事者が自分の言葉で語り、広めて関わっているか聞かれた。自分たちの関係が高い。YMCAの関心が高まり、それがYMCAにかかわる人たちのプライドになつていった。寄付を依頼する側も寄付する側も、参加することに喜びがもてる。ような「YMCAらしいプログラム」という捉え方が必要だ。

浅羽 YMCAは宣伝が得意ではないと思う。いい活動をしているのに知られていない。いまだにクリスマスチャリシカ入れないと思われていたりする一方で、主として子ども達のために、「YMCAはこんなことをしてくれる」と、当事者が自分の言葉で語り、広めて関わっているか聞かれた。自分たちの関係が高い。YMCAの関心が高まり、それがYMCAにかかわる人たちのプライドになつていった。寄付を依頼する側も寄付する側も、参加することに喜びがもてる。ような「YMCAらしいプログラム」という捉え方が必要だ。

が増えなければ実現されない。学校で、保育園で、保か。それを議論するだけで護者に伝える。ワイズの場合や会長研修会で話をしていく。われわれが説明に行ってもいい。そうやって理解者を増やし、支援者を増やし、会員を増やしていく。

東京YMCAへの寄付・支援のご案内

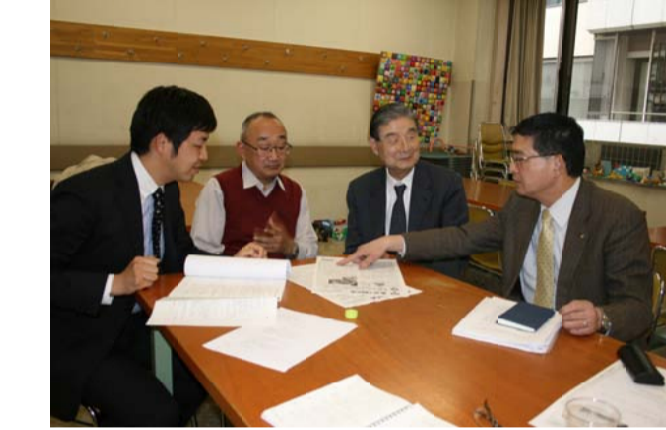
会員として	YMCAは会員によるボランティア組織です。会費(年額12,000円〜)を払う、さらに会員活動に参加するなど、共にYMCAを担う会員を募集しています。法人向けには賛助会員があります(年額3万円〜)。
会員活動による支援	会員事務局では、夏まつり、チャリティーラン、チャリティーゴルフなど、様々なイベントを行っています。これにより、障がい児のための活動など、多数のプログラムが支えられています。
国際協力募金	世界のYMCAネットワークを通じた国際協力活動、青少年育成事業に用いられます。9月には渋谷で一斉街頭募金を行っています。
東日本大震災救援・復興募金	原発事故を含む震災被災者支援のための募金です。東京YMCAは石巻に支援センターを設置し、中長期的な支援を視野に入れた活動をしています。
一般寄付	青少年育成、野外教育活動、障がい児プログラムなど、東京YMCAが行う公益活動をお支えいただくために、ご寄付を受け付けています。
liby(リビー)サポーター制度	「新しいオープンスペース liby」は、学校に行かない(行けない)子どもたちの居場所です。活動資金や登録料の補助をご寄付いただいています。
フレンドシップファンド	経済的に困難な状況にある子どもたちがYMCAの活動に参加する際、費用の一部または全額を援助します。
遺贈制度	ご遺産を東京YMCAの青少年育成活動のためにいただくものです。法律に則った手続きのため、提携信託銀行をご紹介します。

→お問合せは、会員部 tel. 03-3615-5568 kaiin@tokyo.ymca.or.jp

若者が力を発揮するチャンスに

山本 また、そういう社会的ニーズに合った活動が若者の参加によって推進されていけば、彼らの問題意識や行動力などが、社会の中で発揮され、彼らが育っていくチャンスにもなっていく。若者の潜在的な能力を引き出すことができる。

廣田 東京YMCAのボランティアリーダーや専門学校の学生たちが、昨年からの度か石巻のボランティアキャンプに行っている。それは彼らにとってもいい経験だったと思う。YMCAの国際協力が募金には、幼稚園生も参加している。さまざまな活動の時に避難所として役割を担っている。とても感動している。果たしては、いかに



浅羽 Y M C A には、職員がいて、会員がいて、参加者がいる。保護者もい

浅羽 YMCAは宣伝が得意ではないと思う。いい活動をしているのに知られていない。いまだにクリスマスチャリシカ入れないと思われていたりする一方で、主として子ども達のために、「YMCAはこんなことをしてくれる」と、当事者が自分の言葉で語り、広めて関わっているか聞かれた。自分たちの関係が高い。YMCAの関心が高まり、それがYMCAにかかわる人たちのプライドになつていった。寄付を依頼する側も寄付する側も、参加することに喜びがもてる。ような「YMCAらしいプログラム」という捉え方が必要だ。

浅羽 YMCAは宣伝が得意ではないと思う。いい活動をしているのに知られていない。いまだにクリスマスチャリシカ入れないと思われていたりする一方で、主として子ども達のために、「YMCAはこんなことをしてくれる」と、当事者が自分の言葉で語り、広めて関わっているか聞かれた。自分たちの関係が高い。YMCAの関心が高まり、それがYMCAにかかわる人たちのプライドになつていった。寄付を依頼する側も寄付する側も、参加することに喜びがもてる。ような「YMCAらしいプログラム」という捉え方が必要だ。

浅羽 YMCAは宣伝が得意ではないと思う。いい活動をしているのに知られていない。いまだにクリスマスチャリシカ入れないと思われていたりする一方で、主として子ども達のために、「YMCAはこんなことをしてくれる」と、当事者が自分の言葉で語り、広めて関わっているか聞かれた。自分たちの関係が高い。YMCAの関心が高まり、それがYMCAにかかわる人たちのプライドになつていった。寄付を依頼する側も寄付する側も、参加することに喜びがもてる。ような「YMCAらしいプログラム」という捉え方が必要だ。

「我慢じゃなくて、諦めた欲望が環境を、世界を壊しているのも事実です。冒頭の川口さん、諦めでもなく「不便な生活を享受できるか、あつちのものを壊していいか」という問いです。移動の速さ、情報の入手方法、快適な生活などあらゆる場面で、便利さをさらに追求してはいる私たち自身が、その「マタイによる福音書6章」の「求め過ぎず 我慢せず」を求めたい。そうすればこれらのものはすべて添えて与えられる。(総主事 廣田光司)

